

東日本大震災に伴う事業団の支援について (障害者の生活支援等のために福祉職員を派遣)

東京都社会福祉事業団では、平成23年3月11日の東日本大震災で被災され福島県から県外に避難していた障害者施設の方々への生活支援等を行うため、厚生労働省からの要請に基づき、平成23年4月から平成24年1月までの約9ヵ月間にわたり、次のとおり職員の派遣を行いました。

○派遣場所

「千葉県立鴨川青年の家」

当該施設には、福島県の9つの障害者支援施設等から約280名の障害者（児）の方々が震災後の平成23年4月に避難してきました。その後、11月下旬及び平成24年1月中旬に4施設づつ順次福島県に帰還し、残る1つの施設についても、2月11日に福島県に戻りました。

○支援内容

- 派遣された職員は、1陣あたり6泊7日の期間で支援にあたりました。
- 当初は、「千葉県立鴨川青年の家」に宿泊しながら、1日12時間の勤務を行う等、大変厳しい条件の中での支援となりましたが、次第に支援する環境も整い、宿泊場所は6月から近くにあるホテルへ移り、勤務時間は8月から8時間勤務となりました。
- 支援の内容は、利用者と一緒に避難してきた施設職員が、利用者の支援に徹することができるよう後方支援を中心に行いました。

例えば

- ・食事支援や食器の片付け
- ・歯磨き・トイレ等の支援
- ・入浴時の洗体や衣類脱着等の支援
- ・居室・ホール等における見守り
- ・居室、廊下等の清掃業務
- ・衣類、リネン等の洗濯業務

などです。

- 「千葉県立鴨川青年の家」は、障害者用の施設ではないことから、生活棟にエレベーターはなく、階段・浴室等にも手すりが無いため、移動介助・入浴介助を行う際には、特に注



「千葉県立鴨川青年の家」外観

意を払う必要がありました。

■ 1陣あたりの派遣期間では、利用者の特性を理解し関係を築く時間が十分とはいえませんが、施設職員とのコミュニケーションを円滑に図り、その意向にそった利用者支援を心掛けるとともに、避難の長期化に伴う利用者の疲労やストレスに対する心のケア等にも同時に対応しました。

○職員を派遣した事業団の施設（5施設）

七生福祉園 千葉福祉園 八王子福祉園
東村山福祉園 日野療護園



施設内を巡回して引き継ぎを受ける様子

○派遣人数

全43陣 227名（延べ人数）

平成23年4月27日から平成24年1月18日まで、約9ヵ月間派遣を行いました。

	派遣期間	派遣人数					
		合計	七生	千葉	八王子	東村山	日野
		227	50	57	48	49	23
第43陣	1/14(土)～1/18(水)	3	1		1	1	
第42陣	H24. 1/8(日)～1/14(土)	3		1	1	1	
第41陣	12/21(水)～12/27(火)	3	1	1	1		
第40陣	12/15(木)～12/21(水)	3	1			1	1
第39陣	12/9(金)～12/15(木)	3		1	1	1	
第38陣	12/3(土)～12/9(金)	3	1	1			1
第37陣	11/27(日)～12/3(土)	5	1	1	2	1	
第36陣	11/21(月)～11/27(日)	5	1	1	1	1	1
第35陣	11/15(火)～11/21(月)	5	1	2	1	1	
第34陣	11/9(水)～11/15(火)	5	1	1	1	1	1
第33陣	11/3(木)～11/9(水)	5	1	2	1	1	
第32陣	10/28(金)～11/3(木)	5	1	1	1	1	1
第31陣	10/22(土)～10/28(金)	5	1	1	1	2	
第30陣	10/16(日)～10/22(土)	5	1	1	1	1	1
第29陣	10/10(月)～10/16(日)	5	1	1	1	2	
第28陣	10/4(火)～10/10(月)	5	1	1	1	1	1
第27陣	9/28(水)～10/4(火)	5	2	1	1	1	
第26陣	9/22(木)～9/28(水)	5	1	1	1	1	1
第25陣	9/16(金)～9/22(木)	5	2	1	1	1	
第24陣	9/10(土)～9/16(金)	5	1	1	1	1	1
第23陣	9/4(日)～9/10(土)	5	1	1	2	1	
第22陣	8/29(月)～9/4(日)	5	1	1	1	1	1
第21陣	8/23(火)～8/29(月)	5	1	1	2	1	

第20陣	8/17(水)～8/23(火)	5	1	1	1	1	1
第19陣	8/11(木)～8/17(水)	5	1	2	1	1	
第18陣	8/5(金)～8/11(木)	5	1	1	1	1	1
第17陣	7/30(土)～8/5(金)	5	1	2	1	1	
第16陣	7/24(日)～7/30(土)	5	1	1	1	1	1
第15陣	7/18(月)～7/24(日)	5	1	2	1	1	
第14陣	7/12(火)～7/18(月)	5	1	1	1	1	1
第13陣	7/6(水)～7/12(火)	5	1	2	1	1	
第12陣	6/30(木)～7/6(水)	5	1	1	1	1	1
第11陣	6/24(金)～6/30(木)	5	1	1	1	1	1
第10陣	6/18(土)～6/24(金)	5	1	1	1	2	
第9陣	6/12(日)～6/18(土)	5	1	1	1	1	1
第8陣	6/6(月)～6/12(日)	5	1	1	1	2	
第7陣	5/31(火)～6/6(月)	5	1	1	1	1	1
第6陣	5/27(金)～5/31(火)	10	2	3	2	2	1
第5陣	5/21(土)～5/27(金)	10	2	3	2	2	1
第4陣	5/15(日)～5/21(土)	10	2	3	2	2	1
第3陣	5/9(月)～5/15(日)	10	2	3	2	2	1
第2陣	5/3(火)～5/9(月)	10	2	3	2	2	1
第1陣	H23. 4/27(水)～5/3(火)	4	3	1			

(単位: 人)

○派遣された職員の感想

■避難所での職員や利用者との関わりの中で、こちらのことを受け入れてくれる雰囲気、気遣ってくれる優しさにとっても感動しました。短い期間でしたが、皆さんと仲良く慣れたこと、最終日に皆さんが笑顔で「また来てね」と言ってくださったことも嬉しかったです。

(男性職員 第1陣派遣)

■利用者の方々には、地震・原発問題・事故等様々な出来事がありましたが、必死で乗り越えようとしています。その辛い現実も私達は受けとめ、業務を行っていくことが大切だと感じました。

(女性職員 第2陣派遣)

■鴨川への派遣を寮職員皆が希望し、寮職員の協力のおかげで寮代表として応援に出させてもらい、貴重な経験をさせてもらったことを大変感謝しています。

(女性職員 第3陣派遣)

■施設の職員が直接業務を遂行できるように間接業務に徹底し、派遣職員同士が声を掛け合い必要な間接業務が効率よく遂行できるよう工夫しました。

(女性職員 第4陣派遣)

■利用者からは元の施設に戻りたいとの話が聞かれました。そして、職員の方々も家族を福

島に残して単身での生活を余儀なくされています。利用者には明るく真剣に接して、私達にもいろいろ気を使って明るく話をしてくださるが、先の見えない現状のなかで相当フラストレーションを抱えていると想像出来ました。利用者の皆さんの気分転換と職員の休息時間の確保を私達の業務として今後も支援していきたいです。

(男性職員 第5陣派遣)

■事業団以外の法人から参加されている方々と一緒の部屋に泊まったり、仕事を共にすることで、利用者への関わり方に対する意見交換や各施設の運営状況などを知る機会が得られ、日頃では全くない交流であったため、刺激を受けることができました。

(男性職員 第6陣派遣)

■派遣職員は、職員の後方支援であることはいうまでもないが、避難生活が長期化するなかでは、娯楽や息抜きという意味で、何かしら特技をもっているなら提供できると良いと思いました。

(女性職員 第7陣派遣)

■配属された児童部では、施設側から1日の大まかな流れ・日課や支援の流れ等に関する文書が配布され、それを見ながら任務あたることができました。文書には、小中学部・高等部・学卒者・職員の動き(施設職員・派遣職員)と細かく分かれておりとてもわかりやすかったです。

(女性職員 第8陣派遣)

■派遣職員同士では、非常事態の中で施設側が希望されている事、それが些細な事であれ、バックアップ、フォロー体制を維持していく、職員や利用者への負担軽減に繋がる業務を行っていく、そのような支援に徹することを再確認しながら支援にあたりました。

(女性職員 第9陣派遣)

■理髪は経費の関係で毎回全員受けられない状況とお聞きしたので、女性利用児3名の理髪をさせていただきました。カット用のはさみが無いとのことで、工作用のはさみを利用しました。

(女性職員 第10陣派遣)

■利用者が作った七夕の短冊に「早く福島に帰れますように」と書かれたものが多く飾られており、私もそう願わずにはいられませんでした。

(男性職員 第11陣派遣)

■今回の派遣は自分にとって意味のあるものとなりました。派遣職員の連帯感と原動力は経験したことのないのもであり満足感がありました。その反動で派遣終了時には虚脱感も大きかったです。派遣に送り出してくれた寮職員、応援職員、共に派遣された職員、そして施設職員みなさんに感謝したいと思います。

(男性職員 第12陣派遣)

■派遣が開始されて3ヶ月の間少しずつ生活の場が安定し整理されてきているように感じました。子どもたちの衣類保管室は、サイズ別に整理され女子の衣類は個別に衣装ケースに保管できるように工夫中でした。タオル類も用途別に分かりやすく整理されていました。

(女性職員 第13陣派遣)

■私の希望を聞き入れてくださり今回一週間避難所派遣に行かせていただきありがとうございました。未曾有の大震災は、私にとっても人ごとではなく、今回の地震の被害の大きさは、今も信じられない気持ちです。

(女性職員 第14陣派遣)

■派遣期間中にちょうど夏祭りがあり、ステージの出し物を観たり、出店で色々な物を食べ、利用者の方々も楽しいひとときを過ごしていました。青年の家を利用している全施設合同で行われ準備も大変だったようだが、利用者の笑顔が見たいとの思いから開催に踏み切ったとのことでした。

(女性職員 第15陣派遣)

■児童部に配属された派遣職員は、毎日勤務終了後全員で短時間のミーティングを持ちました。長時間の業務のあとさらにミーティングを行うのは体力的にきつかったが、おかげで派遣職員間の意思疎通が図られ、業務を円滑に進めていく上で大変有効であったと思います。

(男性職員 第16陣派遣)

■派遣最終日前日の午後は、活動時間を利用して派遣職員で簡単なクッキングをして、お楽しみ会を開催しました。プチケーキにホイップとチョコをトッピングする程度の簡単な物でしたが皆さんとても喜んで食してくださいました。

(女性職員 第17陣派遣)

■日中は外で洗濯作業をすることが多く、施設職員から気温が高く熱中症防止のため、決められた休憩以外にもこまめに休憩を取ってください、とのご配慮を頂きました。

(女性職員 第18陣派遣)

■施設の職員たちが、懸命に夏休み期間の子どもたちに対して、厳しい人数配置の中、支援や保安にあたる姿を見せていただき、私たちもどんな状況にたたされたとしても、利用者サービスの原点を見失わないようにしなければならぬと感じました。

(男性職員 第19陣派遣)

■派遣期間中、福島で地震が発生した際、職員、児童の間でかなり緊迫した空気が流れました。被災者であることを意識させられ、あらためて気持ちに添った支援の必要性を感じさせられました。

(女性職員 第20陣派遣)

■洗濯に関しては、子供たちの方がよく知っていたり、お手伝いをしてくれたので、とても助かりました。

(女性職員 第21陣派遣)

■幸いな事に、埼玉県からの派遣で秩父学園からの方2名(女性)と一緒に働きながら業務を教えていただくことができ大変心強かったです。

(女性職員 第22陣派遣)

■施設職員の方が派遣職員にとっても気を遣われていて、「家族や職場に迷惑をかけてまでできてくれてありがとう」と会うたびに感謝の言葉を掛けてくださったり、休憩も「私たちも取るので取ってください」と確実に保障していただき、皆さんの気持ちがとても有難かったです。

(女性職員 第23陣派遣)

■他の部署に派遣された職員から、「やることなく、職員も暇そうで、派遣されて来た意味がない」という発言があった際に、派遣リーダーから「避難所の支援に来たという立場をしっかりと踏まえるべき。壊れた角ハンガーを直すのでも、汚れたスリッパを拭くのでも、我々はプロなのだからプロとして何をすべきか、よく見ればいろいろあるはず」と諭していたことに感心しました。

(男性職員 第24陣派遣)

■鴨川青年の家に千葉の音楽グループの方々が来られ、バイオリンの演奏、合唱がされました。台風で学校が休校になったため、児童部の利用者も、音楽好きな14名の方々が参加しました。

(男性職員 第25陣派遣)

■介護度の高い利用者が千葉県内の施設にショートステイに出て、スペース的にも人手の面からも、以前に比べると余裕が伺えました。それに伴い、派遣職員の業務も以前のような洗濯や掃除中心の支援から、利用者の中に入って過ごすことが多くなったと感じました。

(女性職員 第26陣派遣)

■派遣職員は、毎週グループごと一度に入れ替わっているため、引き継ぎの微妙な変化で戸惑いが生じてしまいます。半々の人数ですらして派遣してはと思いました。

(男性職員 第27陣派遣)

■今回の派遣活動で感じた事が、自分の職場に照らし合わせて考えさせられた部分もありました。そのことを踏まえて、改めて仕事に取り組んで行こうと思えた事に感謝致します。また、他の施設職員の方々と共に仕事が出来た事は貴重な経験でした。

(女性職員 第28陣派遣)

■千葉ロッテマリンスの Mascot とチアガールの訪問があり、体育館でイベントが行われ

ました。皆さん、一緒に身体を動かし、声を出し、とても楽しそうに参加されていました。慣れない土地で、外出もなかなか出来ず、日々、寮内で単調な生活を送っているのです。このようなイベントが利用者は勿論の事、職員の方々にも、気分転換やちょっとした気晴らしになるのではないかと感じました。

(女性職員 第29陣派遣)

■職員も避難者であり、「休みをもらって、やっと家に冬物を取りに行ってきた」という原発10Km圏内に住まいがある方や、家族みんなで千葉にきているといった方もいました。地震から避難したら翌日に原発の水蒸気爆発の音を聞き「もうだめだと思った」という話等、貴重な体験談を聞かせて頂きました。

(女性職員 第30陣派遣)

■日中活動の支援として、午前中は室内外の歩行を行いました。午後は固定のプログラムがなかったため、折り紙や切り絵をしたり、テレビを見たりしている方が多かった他、派遣職員に積極的に話し掛けてくる方も数名いらっしゃいました。将棋やトランプ、花札、オセロ、キャッチボールなどができる方もいらっしゃり、一緒に行うこともありました。

(男性職員 第31陣派遣)

■仕事内容は保安が全般だったが、職員、派遣含め人手がある時もありました。もう少しコミュニケーションが取れたら、施設外での散歩を含め、こちらからできそうなことを相談できたかもしれないと思いました。

(男性職員 第32陣派遣)

■今回の派遣は、2回目でしたが、前は児童部、今回は成人部とまた違った対応や支援が必要となり、緊張していましたが、児童部の職員さんから「おかえり」など言って頂き、帰る際にも「次は、いつ来るの？」など言って頂きました。

(男性職員 第33陣派遣)

■派遣中、県内保母学校主催の運動会、近隣幼稚園児のイベント、野球キャンプ招待があり、皆さんはイベントを楽しみにされていました。近隣幼稚園児の訪問は、当日、夕方のNHKニュースで放映され、皆さんテレビを観て喜ばれていました。

(女性職員 第34陣派遣)

■今回他法人含めて派遣職員7名、配属先は3つの施設に分かれたが、宿で派遣同士の情報交換が取れたことが、日々の派遣活動の大きな活力となり、とても感謝しています。

(男性職員 第35陣派遣)

■派遣期間中に、第1陣として原町学園の利用者や職員が福島に戻る事が出来ました。今後順次戻って行く予定ではあるが、千葉からの撤退の後どうしていくのか、中長期的に検討していく必要を感じました。福島に戻ったとしても、避難生活は当面継続されるようで

す。

(女性職員 第36陣派遣)

■配属された児童部では、「洗濯」「学校付添」「トイレ掃除」「食事介助」が優先で、それ以外の業務（コップ洗いなど）については、手が回らない時には職員にお願いすることもありました。優先順位を決めることで、動きがスムーズになりました。

(女性職員 第37陣派遣)

■体育館や風呂場への集団移動時は、特に利用者の所在把握に注意しました。衛生面は避難当初に比べ、かなり徹底されているように思われました。

(男性職員 第38陣派遣)

■派遣職員の役割や施設職員との協働化により日中活動が可能となり、居室内の見守り中心から、午前2時間、午後も約1時間半の活動が継続して実施されていました。

(男性職員 第39陣派遣)

■利用者さんや職員さんは大変良くしてくださり、業務の合間には雑談をしたりと温かな雰囲気でした。また、実習生のような視点で一週間を過ごすことで、職員の利用者に対する丁寧な態度や言葉かけがいかに大切か、初心を思い出させて頂きました。

(女性職員 第40陣派遣)

■本来の施設での生活は個室及び少数部屋だが、大広間での生活のため利用者個々の動きをお互いが気になり、落ち着きがなかったり他害へと結びつく要因が多いと考えられました。職員との連携や問い合わせを密に行いながらの対応が求められました。

(男性職員 第41陣派遣)

■園長、課長も利用者の直接支援に入っており、一人ひとりの状態把握がなされており、より近い関係と感じました。また、利用者さんの福島帰還への不安にも丁寧に応えていたのが印象的でした。派遣期間中に急遽、1つの施設を除いて、1月18日に福島へ移動するとの話があり、みなさん慌ただしく荷物をまとめていました。

(女性職員 第42陣派遣)

■1月18日の9時30分から、福島県への帰還にあたりお別れ会が実施されました。8月に仮設が完成されるまでの間滞在する予定である、いわき市の「自然の家」にむけて利用者・職員が出発して行きました。残る1つの施設については、2月7日に完成予定である田村市の仮設に、2月11日に移動する予定とのことです。

(女性職員 第43陣派遣)